

第1学年〇組〇組 芸術科音楽 学習指導案				
実施日	令和元年11月28日(金)	実施時間	第3、4校時	
場所	音楽室	指導者	〇〇〇〇 ㊸	
対象生徒	芸術科音楽選択生 1年〇組〇名 1年〇組〇名 計〇名	使用教科書、 使用楽曲等	高校音楽I改訂版 Music View、 ポルカ三重奏	音楽I 2単位
1 題材名	「アンサンブルの味わい、未知なる音楽の創造、発見」 ～クラシックギター三重奏曲を通して～ (クラシックギターの基本奏法～三重奏～創作) 新学習指導要領A表現(2)器楽、(3)創作			
2 題材の目標	<p>①クラシックギターの基本奏法を身に付け、その音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを理解し演奏できる。また、他者との調和を意識しながら創意工夫を活かしたアンサンブルの技能を身につける。</p> <p>②音楽を形づくっている諸要素の働きを変化させ、自己のイメージを持って創作表現を工夫できる。</p>			
3 指導観 (題材観、生徒観、指導観)	<ul style="list-style-type: none"> クラシックギターの発音原理はきわめて自然であり、その音は現代社会にあふれている直線的かつ無機質に近い電子音等と大きく異なる。音量はさほど大きくないものの、豊かな響きで自然な減衰音を伴うこの楽器は、繊細でありながら多彩な表現力を持ち全世界で最も多くの人々に愛用されている楽器の一つである。また、ソロにも少人数アンサンブルにも適し、旋律も和声も奏することができる。アンサンブルは必然と対話的・主体的な活動となる。ポルカ三重奏は、ヨーロッパのスイス、オーストリアのアルプス地方の民族舞踊音楽であり、ヨーデルを伴い人々の喜び溢れる親しみのある、広々とした大自然の中で奏でられる。この楽曲では、音楽を形づくっている諸要素の基本的な働きが分かり易く、それらを変化させることで様々な新しい音楽の創造が可能である。 本クラスは、普通科と理数科との混合クラスである。音楽に対する興味関心は高く、いつも前向きに授業に取り組み、場に応じた高い集中力がある。音楽の基礎能力に個人差はあるものの、音楽的な豊かな感性をもった生徒が多い。 【育成したい資質・能力】 クラシックギターの基本奏法を学習することにより、①減衰する音を内的心情により繋ごうとすることで、フレーズ形成能力、レガートな歌心を身につけさせ、②簡単なコード演奏で、音楽の持つ自然な和音機能性(和音による力学)を感じさせ、様々な楽曲の伴奏が可能であることを理解させたい。③他者との調和を意識することで器楽合奏(アンサンブル)の表現力の豊かさ、合奏の楽しさを味わわせたい。 楽曲の音楽を形づくっている諸要素の基本的な働きを再確認し、それらを変化させることで未知なる音楽の創造が可能であり、他者の様々な意見を集め音楽の構成や形式を意識しながら、新しい音楽を創造する技能を身につけさせたい。 			
4 題材の評価 基準	知識・技能【A】	思考・判断・表現【B】	主体的に学習に取り組む態度【C】	
	創意工夫などを生かした音楽表現をすすめるために必要な技能を身に付け、ギターアンサンブルや楽曲の変奏、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもっている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に学習活動に取り組もうとしている。	

5 指導計画 (全 11 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ・クラシックギターの基本奏法学習 (姿勢、調律、単音、和音の弾き方) (1.5時間) ・音階 (ド～ソ) の演奏練習、簡易な単旋律の演奏 (1時間) ・コード (C、G7) の演奏練習、かっこう二重奏の練習 (1.5時間) ・ポルカ三重奏の各3パートの練習、アンサンブルの試み、発表 (3時間) ・ポルカ三重奏の音楽を形づくっている諸要素の働きを確認 (1時間) ・ポルカ三重奏を部分または全体的に変奏、創作を試みる (2.5時間 本時) ・ポルカ三重奏の変奏版、新創作版の演奏発表 (0.5時間)
6 本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ポルカ三重奏の音楽を形づくっている諸要素の働きを確認できる (3校時) ・お互いに意見を出し合い、意図や根拠をもって変奏や創作活動を積極的に試みることができる (第4校時)

7 学習指導過程

時	学習活動及び学習内容	指導上の留意点、配慮事項	評価規準<評価方法>
第3校時	<ul style="list-style-type: none"> ○前時までの学習内容を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ギターチューニング確認、姿勢確認、 ・ポルカ三重奏演奏練習 ○ポルカ三重奏の音楽を形づくっている諸要素の働きを確認する。 ○グループでの創作活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・チューニング補正を促す。 ・板書を効果的に使う。 ・場合により教科書のP20を復習する。 	<p>本時はB、C観点を評価する。</p> <p>評価観点B 【思考・判断・表現】 評価観点C 【主体的に学習に取り組む態度】</p>
第4校時	<p>1 ポルカ三重奏を全員で演奏する。</p> <p>2 本時のめあてを知る。</p> <p>お互いの思いや考えを総合し、未知なる音楽を創造しよう</p> <p>3 グループ毎に創作活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創作部分の選択 ・どの音楽を形づくっている要素を変化させるのか。また、その意図や根拠は何か。 ・ギター以外の楽器の可能性をも探る。歌やかけ声も視野に。 ・グループ内全員が個々の思いや考えを述べあう。 ・全員で試奏を繰り返し、記録をとっておく ・演奏の際、より豊かな音楽的表現となるよう工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と聞き合おうとしているか ・グループ毎に様子を伺い、適切なアドバイスを行う。生徒の主体性や独自性を第一とし、模範解答のような例は示さない。語りすぎない。見守る気持ちを忘れない。 ・全員が意見を述べているかよく観察しておく 	<p>☆音楽を形づくっている諸要素の働きを感受しながら、主体的・協働的に創作活動に取り組もうとしている。</p> <p>【B】【C】 〈観察、演奏発表〉</p>
30分	<p>4 グループ毎に中間発表をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何を創作のポイントとしたか板書する。 ・他のグループから感じ学んだこと等書き留めておく 	<ul style="list-style-type: none"> ・創造においてどんな些細な点でもこの世に初めて誕生するものとして賞賛する。 	
18分			
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次時の予告を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時は更に創作活動を進め演奏発表することを告げる。 	
2分			